

世界自然遺産の保全に係る各種対策・取り組み②

ここでは、世界自然遺産の保全に係る各種対策・取り組みのうち、特に地域のみなさんに関わりの深い事業、お伝えしたい事業について、ご紹介します。

動物対処室の活動報告

動物対処室は、平成29年5月にオープンしてから1年半余りが経ちました。下記の取組のほか、小学校への出前授業や野生動物とペットに関する取組の普及啓発も推進しています。

- ◆ 野生動物では、オガサワラオコウモリ、アカガシラカラスバト、海鳥の治療を行っています。治療・リハビリを経て野生復帰に成功した個体もあり、これまでにない成果がみられています。
- ◆ 山域で捕獲されたネコの中でも負傷・体調不良がみられる個体へは、一時的な処置等を行っています。今年度はネコ一時飼養施設で生まれた仔ネコを村内の希望者に譲渡する取組を関係機関とともに実施しました。希望者との面接や獣医師による適正飼養講習会を行った後、譲渡したネコの村への登録、マイクロチップの装着、避妊去勢手術を行いました。
- ◆ ペットについては、これまでに1,000件を超える診療の中で、健康診断や治療のほか、適正飼養指導を行っており、村のイヌ・ネコの半数以上が受診しています。



父島東海岸へのオガサワラグワの植栽について

- ◆ 過年度に外来植物駆除を実施した父島東海岸の都有地において、植生回復を目的にオガサワラグワを14株植栽しました。
- ◆ 苗木は父島に残存する成木のクローン苗で、試験管育ちです。ゆっくりと島の環境に順化させ、遺伝的に配慮するため父島南部由来の個体を、雨量の多い11月に植栽しました。なお、植栽前には、育成ポットに含まれている可能性のあるプラナリアやシロアリ等の外来種の移動を防ぐため、苗木ごと水に一晩漬けるなどの対策を実施しました。
- ◆ 植栽地近辺にはオガサワラグワの成木が数本生育しており、将来的なオガサワラグワの保全に活かされると考えています。



オガサワラグワ植栽作業の様子

北硫黄島自然環境調査の実施について

- ◆ 来年度以降実施予定の北硫黄島総合調査に向け、10月11～12日にドローン及び調査ダイバーによる陸・海の状況調査を行いました。昨年度実施の南硫黄島調査に引き続き、樹上で活動するアカアシカツオドリの姿を確認することができました。



ドローン調査の様子



樹上で活動するアカアシカツオドリ

◆お問い合わせ先◆

本チラシに関するお問い合わせは、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

環境省小笠原自然保護官事務所（世界遺産センター）

Tel/Fax: 04998-2-7174/7175

E-Mail: RO-OGASAWARA@env.go.jp

東京都小笠原支庁

Tel/Fax: 04998-2-2167/2302

小笠原村環境課

Tel/Fax: 04998-2-3111/3222

林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター

Tel/Fax: 04998-2-3403/2650

世界遺産に関する情報は、下記のホームページをご覧ください。
小笠原自然情報センターHP: <http://ogasawara-info.jp/>



小笠原自然情報センターだより 第22号 2019年1月発行

小笠原諸島世界自然遺産地域連絡会議 事務局

世界自然遺産の保全に係る各種対策・取り組み①

地域連絡会議事務局では、世界自然遺産の保全に係る各種対策・取り組みを行っています。ここでは、10月、11月に開催された各種検討会などについて、ご紹介します。

西之島検討会の報告および西之島クルーズでの啓発・船内展示

10月15日に西之島の検討委員会などを開催しました。また、検討会前後に、「西之島 DAYS」として、各種イベントなどを開催しました。

- ◆ 10月15日に、西之島海域評価ワーキング、西之島の保全と価値にかかる検討委員会を開催しました。
- ◆ 海域評価ワーキングでは、西之島周辺海域の学術的な評価や必要な調査項目・方法などを検討しました。検討委員会では、今後の総合学術調査に向けて事前調査結果の共有などが行われるとともに、外来種が侵入した場合の方向性などについて検討されました。
- ◆ また、西之島検討会にあわせて、「西之島 DAYS」として以下のイベントを行いました。
 - ・西之島ミニ企画展（島の噴火の写真や生き物の写真の展示 於：遺産センター・母島船待ち）
 - ・西之島講演会（鳥類、植物の専門家による講演 於：遺産センター・母島村民会館中継）
 - ・西之島クルーズ船内でのイベント（詳細下記）
- ◆ 西之島クルーズ（10/14 小笠原海運主催）では、島内の小学5、6年生を招待し、レクチャーや島の観察を行いました。児童からは、「10年後の西之島について「コウモリが飛んできているかも」「カタツムリがいるかも」「鳥に運ばれて外来種が入っているかも」などの意見があがりました。また、一般参加者を対象とし、火山や鳥類の専門家によるレクチャーも実施しました。



児童向け船内レクチャー



おがさわら丸から西之島

小笠原希少野生植物保護増殖事業検討会（11月21日開催）

「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」に基づき、絶滅のおそれのある希少動植物の保護増殖事業を推進しています。

- ◆ 小笠原では、ウラジロコムラサキ、シマカコソウなど12種（平成31年1月現在）の希少植物について、自然状態で安定的に存続できる状態になることを目標に、課題解決の困難度によってA～Cの3区分に分類し、保全対策を展開しています。
- ◆ 本年度の検討会では、現在の生育状況の評価と今後5年間の実施計画について話し合いました。
- ◆ ムニンノボタンやコヘラナレンについては、ノヤギやネズミの食害対策が功を奏し、BグループからAグループに振替えられました。一方、自然更新がみられない、数が極端に少ないなど、状況が改善しない種もあります。
- ◆ 今後、島内育苗や遺伝情報を活用した系統保存の検討など最新の知見を導入しながら、関係機関・関係団体・島民の皆さんと連携しながら、保護増殖事業を展開していきます。

		「自然状態で安定的に存続できる状態」になるまでの課題解決の困難度	該当種
A	短中期	現在の取組みの継続により、目標に到達することが可能と考えられる種	ヒメタニワタリ、シマカコソウ、ウラジロコムラサキ、ムニンノボタン、コヘラナレン
B	情報不足	有している課題が、短中期的に対応可能なものかどうか不明な種	アサヒエビネ、コバトベラ、タイヨウフウトウカズラ、ウチダシクロキ
C	長期	短期的には解決が困難な課題を有し、長期的な対応が必要と考えられる種	シマホザキラン、ムニンツツジ、ホシツルラン

地域みなさんと取り組む世界自然遺産の保全管理

事務局が実施する対策・取り組みのほか、村内外のみなさんにも遺産価値の保全に参加いただいたり、最新の取り組みを学んでいただいたりする、各種プロジェクト・イベント等を実施しています。ここでは、各種プロジェクト・イベントをご報告するとともに、「地域の取組み」として母島観光協会と小笠原高校の取り組みをご紹介します。

平成30年度下半期イベントスケジュール (H31.1月時点)

H30. 10月	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産センターハンミョウイベント (6日) 西之島 Days～西之島の将来を考える～ (環境省) ミニ企画展 in 世界遺産センター (13～16日) 西之島の価値と保全にかかる講演会 (13日) 西之島クルーズ (14日) (小笠原海運) 遺産センターハロウィン (31日夕方～) (環境省)
11月	<ul style="list-style-type: none"> 南島外来植物駆除ボランティア (10日) (東京都) 母島の森 植樹会 (11日) (小笠原村) 小笠原諸島固有森林生態系回復ボランティア2018 in 母島 (29、30日) (林野庁)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回環境省こどもパークレンジャー in 母島 (2日) オガグワの森 植樹会 (9日) (小笠原村) 西島外来植物駆除ボランティア (22日) (小笠原村)
H31. 1月	<ul style="list-style-type: none"> 兄島視察会 (19日) (小笠原村)
2月	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産センターおがニャンイベント・仮 (環境省)
3月	<ul style="list-style-type: none"> 森づくり維持管理イベント (父島・母島) (小笠原村)

遺産センターdeハロウィン

- ◆ 世界遺産センターではハロウィンにあわせて、10月31日にオガサワラオオコモリの展示、クイズ、お菓子の配布を行いました。遺産センターもハロウィン仕様に飾り付けしました。

小さなお子さんから親御さんまで 150名以上の方が遊びに来てくれました。(また来年も来てね！)



小笠原諸島固有森林生態系回復ボランティア 2018 in 母島

- ◆ 林野庁では平成14年から内地のボランティアを一般公募し、母島の地元ボランティアの方と一緒に、外来種であるアカギの駆除に取り組んでいます。16回目となる今回はアカギの抜取り等のほか、小笠原諸島返還50周年を記念して、オガサワラグワの植栽も行いました。
- ◆ 参加者からは「駆除だけでなく、植栽もできてうれしい。毎年母島に来て、自分の植えた木の生長を見続けたい。」等の感想をいただきました。



オガグワと一緒に記念撮影

ハンミョウイベント&小学校3年生ハンミョウ授業

- ◆ 世界遺産センターでは、小笠原の固有昆虫であるオガサワラハンミョウ(以下、ハンミョウ)の生態や保護の重要性、秘めた魅力を多くの方に知ってもらうため、10月6日に一般向けのハンミョウイベントを、10月11日には小笠原小学校3年生を対象としたハンミョウ授業を行いました。
- ◆ ハンミョウイベントでは、50名近くの参加者が集まり、幼虫や成虫が間近に見られるバックヤードツアーやハンミョウの顔を模したお面の作成、ハンミョウの柄合わせ等の遊びを通して、オガサワラハンミョウを守る意味を学んでもらいました。



バックヤードツアー



お面作り

- ◆ 小学校3年生の授業では、ハンミョウとはどんな生き物か、どうして守らなければいけないのかを飼育体験や観察を通して学習しました。



ハンミョウ幼虫の観察



ハンミョウ授業の様子

地域の取組み

母島観光協会 携帯トイレの普及・啓発活動

母島観光協会では、環境保全のため携帯トイレの普及、啓発活動を行っています。

- ◆ 母島のトレッキングコースでは途中にトイレがなく、排泄により景観や生態系への影響を及ぼすことが懸念されるため、携帯トイレの使用を促進しています。
- ◆ 特に石門地域は、ほぼ全域が森林生態系保護地域に指定されており、また、ガイドツアーの行程が約7時間と長時間にわたることもあり、「母島ガイド運営協議会」による自主ルールで、携帯トイレの携行が義務付けられています。
- ◆ 母島観光協会では、石門ガイドツアー参加者で携帯トイレを持っていない方へ、携帯トイレの貸し出しを行っています。貸し出した携帯トイレは、使用された場合、実費をお支払いいただいています。



石門

小笠原高校 兄島野外活動

- ◆ 小笠原高校では毎年兄島で1年生の野外授業を行っています。今年度は11月23日(金)に日帰りで行いました。
- ◆ 兄島の希少な自然や生き物を実際に観察し、その価値を守るために地域・関係機関が行っている取り組みについて、それぞれ紹介してもらいました。また、兄島に上陸するための外来種対策や、外来樹の駆除作業などを通して、兄島がどのような島で何が行われているのかを理解し楽しく安全に野外活動を終えました。



先生のコメント

植物の葉が小さくなっていたり、マイマイの種類が多さなど生徒は自分達が育った小笠原の自然の不思議さに驚いていた。大変貴重な経験をさせていただいた。これからも興味を持ち続けたいと思う。

生徒の声

- ◆ 兄島にしかない陸産貝類や植物が見られて良かった。
- ◆ 取り組みによって固有の生き物が守られていることがわかった。 など

小笠原国立公園こどもパークレンジャー in 母島 第3回「新夕日ヶ丘をデコルンジャー！」開催報告

- ◆ 環境省では、子どもたちに島の自然の大切さや自然再生事業について知ってもらうため、母島の新夕日ヶ丘自然再生区にてレンジャー体験イベントを実施しました。
- ◆ 第1回の虫さがし、第2回の森づくり(植樹)を踏まえ、12月2日に開催した第3回では、これまでに学んだことや小笠原の自然の魅力を「伝える」をテーマに樹名板づくりなどを行いました。



葉を紙にこすりだして葉脈の観察をしたり、表面を触ったり、匂いをかいでみたり。それぞれの木の特徴を五感で感じました。



- ◆ みんなで完成させた計13枚の樹名板には、観察して気づいたことや豆知識なども書かれています。樹名板は柵の外からでも見ることができますので、お立ち寄りの際はぜひ探してみてください！